

全国まちづくりフォーラムが開催された3日間、非常に多くの勉強をさせていただきました。全国から集まったまちづくり関係者の皆さん、フォーラムの運営に携わってくださった皆さん、参加してくださった町民の皆さん、本当にありがとうございました。

企画環境課スタッフとして、また、広報かねほんちょうとして、ぶっ通しで関わらせてもらい、疲労困憊ですが、素直に楽しかった。充実した3日間でした。

しかし、この特集を書き終えようとしている今も、「まちづくり」とは何なのか、何をすれば成功するのか、何をもちって成功といえるのか。答えは闇の中を手探りで歩くように、まるで見えてきません。フォーラムは3日間の会期を終え、全国からの参加者たちは、良い会議だったと言ってくれました。勇気ももらったと帰っていきました。でも、さよならセレモニーで町民の方が放った言葉が今も頭に残るのです。「今、地域の伝統芸能は非常に厳しい状態にあります。見るたびさみしい気持ちにさせられます。このフォーラムで高まった気持ちも、家に帰ると現実に戻ってしまう。ここにいる皆さんには、どうか『厳しい現実』があるということを考えながらこれから取り組んでいっていただきたい」…。

まちづくりの熱を風化させてはならない。フォーラムが終わった今だからこそ、改めて考えたい。フォーラムが残した足あとを。フォーラムが鳴らした警鐘を。フォーラムが示した未来を。今回の特集では、3日間の様子をできるかぎり詳しく皆さんにお伝えしたい、考えるきっかけづくりになりたいと思い、独自取材も含め大きな特集となりました。これが私から町民の皆さんに送るメッセージです。まちづくりとは、地域活性化とは何か、皆さんも良ければ考えてみてください。第3章まちづくりへのアプローチでご紹介した取り組みは、川根本町まちづくり事例のほんの一部分に過ぎません。この町の埋もれた資源は、皆さんにこそ掘り起こしていただきたいと感じます。

私も広報担当として、これから何ができるのか考えます。皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

私も、この町で生きています。

今回の特集を企画するにあたり、講演内容の掲載や資料のご提供など、突然のお願いにも関わらず快い返事をくださいました講師の皆さま、そしてフォーラム運営に携わっていただいた町内外の皆さま、参加者の皆さま、この特集を読んでもらった皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

ぜひご感想など、広報までお送りください。  
ファックス：(56) 2235 担当 小笠原あて

【終章】 終わりを迎えて、そして始まりを迎える。

人が集えれば  
町ができる  
町ができれば  
人が生まれる  
発展と  
衰退とを繰り返しながら  
町は育まれてきた

まちづくりは  
人づくりであると  
誰かが言う

ここに9086人の人が生きるならば  
9086通りのまちづくりがあるのかもしれない  
この町は  
人とともに生きる

2007年・晩秋 特集 完

文中の「9,086人」とは、今（平成19年9月1日現在）の川根本町の人口です。平成17年10月1日（約2年前・合併当時）の人口は9,377人でした。人口はこの2年で約300人減少し、今、このときも減り続けています。